

ヒンプンを 壊してもいいですか？



●Answer

きゅうようじ ほんがんじ
沖縄市・球陽寺(コザ本願寺)

ぜんしゅうしよく きえ りゅうしやう
前住職 帰依 龍照

Q オヤジの三十三回忌が終わったので本人が造った玄関先のヒンプンを壊してもいいのでしょうか？風通しも悪いし、汚い石で見た目も悪いので、駐車場にしようかと思っています。(那覇市・Oさん・30代)

A Oさんからのご質問は、お父さまの三十三回忌でお参りさせていただいた当日、ご自宅にて承りました。拝見したところ、立派な港川石のヒンプンではないですか。Oさんに私から、沖縄でヒンプンを屋敷に造る意味をお尋ねしましたところ、家の中に住んでいる様子を外からのぞかれないためにヒンプンがあり、垣根や目隠しみたいなイメージをお持ちのようなのでした。以前、私も同じようなことを恩師からご教授いただいたことがあったため、それにつけ加えOさんには、「ヒンプンは魔除けにもなっている」という内容もお伝えさせていただきました。

諸説あるヒンプン説を参考にしますと、どうやらマジムン・ヤナムンはお家に真つすぐやって来るらしいですよ。彼ら(彼女ら)もできませんが、角を曲がりきれないということを書き添えていただいたことがありません。その理由から、カジマヤの交差点では、曲がりきれなくて壁にぶつかるマジムン・ヤナムンのため、石敢當が設置さ

れているということ、とても興味深い発見でした。ヒンプンは思いやりの象徴

Oさんと立ち話しつつ、ウナーというお庭と一緒にウジョーという正門と、ナカジンという玄関が直線に配置されています。このままでは、真つすぐが得意なマジムン・ヤナムンが余裕でドンドン入って来ることになるので、このヒンプン造られたお父さまは、私が想像するに、ヒンプンが屏風(びょうぶ)と解釈され、マジムン・ヤナムンがOさん家に入れないよう、ヒンプンが通行止めになっているイメージをお持ちになっていたのではないのでしょうか？

このような会話をしているうち、Oさんから、もともとわが家のヒンプンは、ウフタンメーの頃、首里にあった昔の住宅から運んできたものであり、お父さまからは重要なものだから大切にしなければと言われた記憶がよみがえってきたことでした。もしもヒンプンを壊して駐車場にしてしまおうと、そこはマジムン・ヤナムンのたまり場となり、それこそ、マジムン・ヤナムンの駐車場になってしまふのでは？と想像するに暇がありません。

いさま・お父さまがマジムン・ヤナムン除けとして、当時のご家族・ご家庭を守るため、お造りになられた温かい思いやりの象徴でもあったのではないのでしょうか。

文化や歴史を語り継ぐ

また、沖縄のしきたりを参考にさせていただきますと、ヒンプンは、のぞき見防止、マジムン・ヤナムン防止のみならず、来客は、ジーチヌカンヌヒジヤイ、ヒンプンの右側の上座から招き入れ、家主は、ジーチヌカンヌニジデイ、ヒンプンの左側の下座から迎え入れるという、琉球・沖縄の伝統的な『主客文化』『上座・下座文化』の象徴ともいわれています。

ヒンプンは、どちらのご家庭にもあるものではなく、今となっては貴重なアジア圏の住宅様式の一部だともいわれています。汚れが気になるようでしたら、洗浄することにより、港川石などは、もとのヒンプンの美しさを醸し出してくれるかと思えます。しかし、あくまでも個人的な見解ですが、ヒンプンは、ピカピカに洗浄することも一案ですが、コケなどがむしっていること(埃(ほこり)を

語り継いでいるようで歴史を感じられるかもしれせんよ。

Oさんは会話の終わりに「やつぱりヒンプンを壊すのはやめます」とおっしゃっていました。これからも今まで同様、ヒンプンを大切にしてお父さまたちのように、ご家族・ご家庭を守っていきたいとおっしゃっていました。どうぞ、ご自身で今回のご質問の回答を見つけれられたようです。そのお言葉を耳にして、私もホッとひと安心。

『虎は死して皮を遺す 人は死して名(志)を遺す 大根食べたら菜(名)が残る(遺る)』とは、詠み人知らずのとある人生唄。お父さまの三十三回忌を温かいご縁とし、ヒンプンを温かいご縁ともし、ぜひとも、ジンプン深き、お父さまたちの『名(志)』をこれからも受け継いでいただけますように。

